

## 思考力・表現力の育成

～算数科の問題解決型の学習における言語活動の充実を通して～

### I 研究の内容

#### 1 研究の目標

- 主体的な学びの充実に向けた授業研究に努め、児童の思考力・表現力を育成する
- 算数科における言語活動の充実・言語環境の整備に努める

#### 2 研究の具体的内容

##### (1) 学級づくり・集団づくり

- ア Q-U アンケート実施，ヘルプサイン・ポジティブチェック法，クロス集計表の見方についての環流及び K13 法による分析・「今後の対応策」の検討
- イ 各学年の「今後の対応策」の共有化，不満足群の児童の再確認（運動会前）

##### (2) 授業づくり・授業改善

- ア 算数科におけるアクティブ・ラーニングについての理論研究
  - イ 問題解決型の授業研究・「甲州市 Teacher's Note」を活用した授業づくり  
第2学年 算数科授業研究「100より大きい数をしらべよう」  
授業者 遠藤 香織教諭  
指導・助言 義務教育課 櫻井 順矢指導主事  
第5学年 算数科授業研究「単位量あたりの大きさ」  
授業者 小泉 匡之教諭  
指導・助言 峡東教育事務所 三森 公仁指導主事
  - ウ ICT を活用した授業実践 研修 講師 中村 弘和教諭
  - エ 一人一実践（授業研究者以外全員）
  - オ 授業の構造化 板書用「めあて」「まとめ」プレートの制作・配布・活用
  - カ Q-U 分析結果を載せた指導案づくり・座席表づくり
  - キ 算数科における言語環境の整備・充実「算数コーナー」「ことバンク」の掲示
  - ク 算数科意識調査の実施（年2回）
  - ケ NRT 検査，平成28年度「全国学力・学習状況調査」，3・5年「県学力把握調査」結果の分析と今後の対策の検討・学習学年一覧表の作成，活用
- ##### (3) 保護者との連携
- ア 「家庭学習の手引き」を利用した家庭学習ノート（いじりの子ノート）の指導・保護者への周知
  - イ 各学年の取組についての情報交換・系統的な支援の共通理解

ウ 授業参観に合わせた「いじりの子ノート展覧会」の実施

## II 成果と課題

### 1 成果

- (1) 各ブロックで充実した Q-U 分析ができ、それぞれの学級集団づくりについて多くのアイデアを出し合うことができた。アタックシート集を見ながら対応策を話し合えたことも良かった。
- (2) 「めあて」「まとめ」のマグネットシートを全教室に配り、全職員で授業の構造化を意識しながら授業を行うことができた。「甲州市 Teacher's Note」に沿った授業づくりを意識し、取り組むことができた。
- (3) 算数科意識調査は、児童の実態を数値として見とれるため、児童の変容を把握することができた。
- (4) 「家庭学習の手引き」・「いじりの子ノート」の取組では、各学年の取組の様子を情報交換し、系統的な指導へとつなげることができた。

### 2 課題

- (1) Q-U 分析を丁寧に行ってアタックシートを作成できたので、今後は更にアタックシートをより活用していきたい。
- (2) 「算数コーナー」や「ことバンク」の実践は、その必要性を感じられたものの、年間を通して取り組むのは難しかった。今後はデータで作成し、共有財産として活用していきたい。さらに、掲示場所を統一したり、系統的な取組もできるとよい。
- (3) 授業の構造化を意識し、「めあて」「まとめ」のマグネットシートの提示はできたが、マグネットシートを示すタイミングや見通しを持たせる発問等、試行錯誤していく必要がある。
- (4) 「家庭学習の手引き」・「いじりの子ノート」については、来年度も、年度初めに職員の意識の統一を図っていきたい。また、家庭での働きかけをどのように行っていくと更に家庭学習が充実するのかについても深めていきたい。

## III 成果物

- 1 Q-Uアタックシート（全学年）
- 2 授業研究授業案・一人一実践授業案及び実践のまとめ
- 3 「算数コーナー」「ことバンク」掲示
- 4 算数科意識調査
- 5 井尻小「家庭学習の手引き」（低・中・高）
- 6 平成 28 年度「全国学力・学習状況調査」、山梨県 3・5 年「学力把握調査」出題問題 学習学年一覧表

（研究主任 志村多恵）